

## 審査の結果の要旨

氏名 金 旼宣

インドでは、経済自由化を進めた 90 年代前半以降は急速な経済成長を続けている。さらに、近年外資系企業の国内経済に占める比率が増大するにつれて、大都市周辺部において農地収用と都市的土地利用への転換を巡り、農民と政府との間ではコンフリクトが多発している。したがって、これらの地域における適切な土地利用管理および、農村的性格をもつ社会と都市的性格をもつ社会の共存によって緊密な連携とバランスが保たれていた空間を創出、または再生することが課題となっている。

このような背景のもと、本研究では、農村的土地利用と都市的土地利用の混在が進行しているムンバイ都市圏のフリンジ地域を対象地として、都市・農村地域が共存・連携するフリンジを構築することで持続可能な循環型都市圏への発展の可能性を検討している。具体的には、(1) 都市フリンジの農村地域における近年の都市化に伴う土地利用変化の実態の解明、(2) 都市・農村混在地域内の集落を対象に、都市化に伴う地域社会・経済システムの変容実態の考察、(3) 都市・農村間のリンケージの観点から、機能的連携の機会及び制約要素を抽出することで、大都市フリンジ内の好循環モデルの構築に向けた政策・制度への示唆を得ること、を目的としている。

研究の方法は、衛星画像を用いた土地被覆分類と現地調査を基にし、3 時期（1992 年、2002 年、2010 年）の土地利用図を独自の GIS データとして作製し、都市化傾向分析を行った。さらに、都市・農村的土地利用の混在化が最も顕著な地域としてパンベル郡を抽出し、農村集落における土地利用の変遷を詳細に分析した。さらに、パンベル地区の 3 農村集落を対象に、都市化による土地・住宅所有関係の変化、就業構造と農業活動などの地域社会・経済の変容について詳細な全戸アンケート調査を実施し、実証研究を行っている。

この結果、伝統的農村社会が都市化や工業化の影響の下で、上位経済構造へ組み込まれることで混在化した集落空間構造へ変化し、都市型地域経済の末端レベルへの統合によって、集落内の固定化していた上位・周辺空間へのリンケージが多様かつ双方向的に変容したことを、実証的に解明することに成功している。

以上の分析に基づき、研究の成果として、都市圏スケールでの地域開発や政策決定を通じて、多くの集落領域が上位の空間構造に直・間接的に統合されたこと、農村社会から都市社会への移行が進んでいること、混在化した農村集落空間上でのリンケージの変

容がすすんでいることを示しているが、具体的には以下の3点を指摘している。

1) 都市化は農民の理念思想の変化をもたらし、その結果農地に対する価値観が生産手段から消費財へ変わったことが、伝統的リンケージが脆弱化した最大の要因である。

2) 都市部の住民と農村部の住民が多様で密接なつながりを持つことによって、農業に関わる生産活動と非農業に関わる生産活動が高度に混合する現象を引き起こした。農村側からのアプローチだけでなく、都市側からの積極的アプローチかつ多様なセクター間のリンケージが拡大することで、水平的空間構造が形成される必要がある。

3) 農業継続による生計手段の安定的確保が、非農業経済への移行、拡大促進の必要不可欠要素と考える。反対に、非農業活動からの様々な収入源によって世帯の生活基盤が支えられ、家族構成員の職業が分化し始めた。つまり、地域社会内部の経済連携は地域社会と外部との間の経済連携に匹敵するほどの重要性を持っていることが確認された。

4) 農村集落における非農業経済が成熟する前の性急な農業離れは、生活基盤の弱体化につながり、インフォーマル経済が発達していない農村経済におけるマージナル労働者の大量発生は、更なる経済の不安定化、脆弱化を引き起こしやすい。

以上の知見に基づき、全体とまとめとして、分権型地域計画・管理体制の整備と権限委譲による地域ガバナンスの構築・強化、とくに、農地の利用と取引に対する将来を見据えた計画の作成と詳細な規制、手続きの整備の必要性を提言している。

本研究は、都市と農村の混在する、アジアの巨大都市特有の現象ともいえるフリンジ地区において、都市的機能と農村的機能の融合した新たな地域形成の可能性と課題を提示した他に類例のない先駆的研究であり、学術的に優れた価値を有していると同時に、きわめて有益な提言となっている。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。